

【背景・課題】

本県の紅花の歴史は古く、生産から加工までのシステムとして現代に受け継がれ、産業面のみならず、多面的な効果をもたらしている。令和3年10月に『最上川流域の紅花システム 歴史と伝統がつなぐ「最上紅花」』が世界農業遺産に認定申請されたことを契機とし、米沢の紅花の次世代への継承と地域経済の活性化を図るためのプロジェクト事業を展開していく。

【プロジェクト概要】

最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会を立ち上げ、生産から加工、販売、観光、文化、教育、景観などの様々な取り組みを一体的に展開することで、本市の紅花の更なる磨き上げを図り、次世代への継承と地域経済の活性化を目指す。

【推進体制】

令和4年度 最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会

令和3年度 最上川源流よねざわ紅花まつり実行委員会

- ・ 山上地区（コミュニティセンター、敬師の里未来づくり委員会 地区委員会、ボランティアエビガサワ）
- ・ 米沢四季のまつり委員会
- ・ 米沢市観光キャンペーン推進協議会
- ・ 米沢繊維協議会
- ・ 刺し子工房
- ・ 米沢工業高校（専攻科）
- ・ 大学生サークル（アクセルリンク、ポプラ、やまがた学生情報局）
- ・ 「竹あかり×ゆき×祈り」実行委員会
- ・ 米沢市（観光課、農政課、地域振興課）

- ・ 米沢商工会議所
- ・ 米沢観光コンベンション協会
- ・ 山形大学工学部、米沢栄養大学・米沢女子短期大学
- ・ 東日本旅客鉄道仙台支社米沢駅
- ・ 南原コミュニティセンター
- ・ 松川地区町内会長・地区委員等連合会
- ・ 山形県（園芸大国推進課、置賜総合支庁連携支援室）※アドバイザー
- ・ 米沢市（商工課、森林農村整備課、米沢ブランド戦略課 学校教育課、社会教育文化課、コミュニティ推進課）※事務局

連携
支援

東日本

山形県

山形県紅花生産組合連合会

参加

応援

ボランティア（花摘み等）、オーナー制後

企業版ふるさと納税、クラウドファンディング

【課題】

◎紅花の生産拡大…収穫時期の人手不足

花摘み期間：7月上旬～下旬

花摘み時間帯：午前5～7時（早朝作業）

◎紅花に関する製品開発…紅餅や乱花以外の活用の仕方

◎景観づくり…県内唯一の山形新幹線沿線上の紅花畑の拡大

◎市民向け普及啓発…市内小学生・中学生が紅花と関わる体験学習（現在、プランター栽培）

◎最上川源流よねざわ紅花まつり…「米沢の夏まつり」として拡大

◎情報発信…米沢の紅花の認知度不足

（市内でも紅花栽培についてあまり知られていない）

【プロジェクトイメージ】

